第 2017-46 号

恵みと真理のニュース

2017 年 11 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

迫害と苦難を勝つように助け下さって、その日に主がくださる誉め言葉と賞を愛し今日も主の事に力を尽くすように恵みを与えてくださる神様を賛美します

私は中学生の頃、福音を聞いてイエス様を信じ仕える生活を始めました。その時から自由に教会に通い神様に礼拝を捧げる生活をしていましたが、イエス様を信じない旦那と結婚した後、旦那の酷い反対にぶつかって教会へ行けなくなりました。教会に行って説教を聴き賛美し祈りを出来ない生活をすると心が空しくて生きる意味もなくなり、楽しさもなくなりました。何よりもこのように永遠に救われない可哀そうな者になるか恐れました。

再び教会に通って熱心に信仰生活をしようと固く決心をして機会を見る時に熱心に伝道する恵みと真理教会の首区域長に出会いました。その方から導かれて恵みと真理教会で新たな心と覚悟で信仰生活をすることが出来ました。旦那の反対が相変わらずあって教会に行って礼拝を捧げるのはやさしい事ではありませんでした。それで旦那が職場に行った時、水曜礼拝に参席して決心しました。今もその日を考えると当会長牧師の説教を聴いて限りなく涙を流した記憶が出て実に感慨無量です。神様は私を真で愛していらっしゃる。”という考えで感激して感謝でした。

その時から礼拝を愛し御言葉の恵みを望みました。しかし、旦那の反対があまりにもひどくて主日に教会へ行けなかったです。代わりに平日礼拝と区域長祈り会に行って御言葉を聴きせつに神様に祈りました。日曜日の朝の家のベランダで立って往来する人々を見ながら"あの人々は教会に行くから本当良いな。“と今どこに行くかわからないが、その人々がみんな教会に行く聖徒達だと思ってうらやましかったです。 そうする中で、ある水曜日に子供と教会に行って来たその夜、子供の口から"ハレルヤ！”して神様を賛美するのを聞いた旦那はその日からもっとひどく教会に行けないように迫害しました。もうこれ以上霊的な戦いから逃げることが出来ませんでした。主をはなれて礼拝を捧げなくては生きることが出来ませんでした。続けて平日の秘かに教会へ行って礼拝を捧げる一方、期間を決めて祈り始めました。すると、旦那は"神様と私を誰を選択するのか？”と聞いて、神様を選ぶなら離婚するとしました。その話を聞いた瞬間、今まで我慢していた涙が出ました。もっと心と力を尽くして神様に祈りを捧げました。"私の魂を救ってくださった神様！旦那の魂も救ってください。旦那の名前も天国の生命の本に記録されるように願います。夢の中でも旦那が主に出会う主の奇跡が起きるように切に祈ります。そして、” 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ書４１：１０）御言葉を黙想し神様を仰ぎました。教区伝道師と区域長と執事と共に祈ってくださり、慰めと励ましをしてくださって大きい力になりました。聖霊様が私の心を強くして大胆にしてくださって旦那を愛し憐れむ心を下さってむしろ神様に感謝する信仰と希望をくださいました。そして、迫害でも旦那のため祈りながら喜びの心で信仰生活を続けました。 そんな私に神様は区域長の職分をくださいました。さすが、今、私の状況と環境で職分を担えられるのか心配しましたが、 "わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。” （フィリピ信徒への手紙４：13）と御言葉を考え従順して感謝する心で職分を受けました。すぐ、伝道の実りがなくて区域がリバイバルできない時"神様！私の信仰生活も大変ですが、区域聖徒達まで私がどのように一人一人面倒を見て見守らなければならないですか。と不平をする心もありました。しかし、そのときことに説教御言葉に恵みを受けて力を出して、区域長の祈り会で祈る中で私のため神様が尊い区域長の職分を下さったのを許可してくださったのを悟りました。すると神様の前で本当に恥ずかしくて、涙を流して悔い改めてもっと熱心に仕え奉仕するようになりました。

旦那の事業がさらに難しくなって整理しなければならない状況になって家の事情が難しくて中学生で思春期を過ぎていた子供が しばらく彷徨しました。神様の恵みがなかったらその時、私はがぎりなく落胆して絶望したはずです。その状況で私はもっと礼拝中心で生活してもっと職分を担えました 。そして、切に祈って神様の助けを求めました。すると、子供が心を治して再び熱心に勉強を始めました。"エホバイレ” 神様は私の周りに助けの手を予備してくださり子供と私たちの家族に必要を満たしてくださいました。

子供は高校に入って奨学金を受けて勉強しながら夢を抱いて去年、神様の恵みで願っていた大学に進学しました。去年、私と子供は一つの心で毎日ように神様に祈りました。二人と共に神様の前で近づいて、神様の愛と恵みに真の感謝した一年でした。体と心が健康になって私の祈りの同役者であり信仰の同伴者になっているこの子供を通してわたしはもっと力を得ました。

旦那が事業を整理してから私も果たらなければならない状況になって神様の摂理と助けを願いながら祈りました。そうしたら神様は私に午後に仕事をして相変わらず熱心に礼拝する生活をするように摂理してくださいました。初めは小さい空間で仕事と家事を両方するため大変でした。しかし、神様の恵みが望まれ家の問題が解決しました。そして兄の助けで車まで出来てもっと楽しく仕事をしてその車で教会と区域聖徒を仕え奉仕することが出来ました。

私は神様の恵みに感謝を捧げ意気消沈した旦那のため"神様！旦那が人を見ながら頼らないようにして下さり、主を信じ主だけを見上げるようにしてください。生きる人生にいつも成功だけではなく失敗もあるのでまだイエス様を受け入れなかったですが以前を考えると少し心に変化が起きているのを感じます。この人生が短いのを知るようにして下さり、旦那が御国に希望を持つようにして下さい。先に信じた私が信仰の手本を見せながら祈りと愛で旦那を主の所に導くように主に祈っています。神様が決めた時になると私の願いを成し遂げて下さり私の家の喜びと感謝の賛美が止んでないようにしてくださることを信じます。

主日礼拝も捧げなかった私が首区域長の職分で教会と聖徒を仕え奉仕し伝道する使命を担えたのはただ、神様の恵みであるのを知るので受けた職分を真面目に思って神様が呼んで下さったので熱心に献身しました。その日に"良くした。真面目で忠誠したしもべよ。”とおっしゃる主の誉め言葉を聞くように"神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。”と告白をするように願いながら祈ります。私にくださった多くのことを御国のため神様がくださった恵みなんで感謝し、主の喜びのため用いられるのを希望をして、神様に栄光を捧げます。

［信仰コラム］

不安と恐怖を治める秘訣

＂恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし...＂（イザヤ 41:10）

＂鳥が頭の上に飛ぶのは仕方なくても頭の上に巣をくうとしたらその人の責任だ。＂という格言があります。悪くて良くない考えが心に留まり、心に根付くように放置してはいけません。＂不安と恐怖を治める秘訣＂に関して調べてみます。

第一は、不安と恐怖の原因について調べてみましょう。神学者ポール・ティリッヒは人間の不安は人間存在の根本から来るのだとして＇存在の不安＇という言葉を使いました。そして不安は三つの形態として現れるが死の不安、罪責の不安、生活の虚無と無意味の不安だとしました。ナポレオン・ヒルは人が持つ不安と恐れの原因を貧しさ、失敗、疾病、愛の喪失、老衰、自由の喪失、死の七つに分類しました。聖書創世記には人間が不安と恐怖を持つようになった根本原因を明らかにしています。神様が犯罪したアダムに＂あなたはどこにいるのか＂と尋ねられました。アダムが＂園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです。＂と言いました。人間が最初に感じた不安と恐怖でした。

第二は、不安と恐怖がもたらす打撃と損傷について調べてみます。

不安と恐怖は私達の神経と筋肉が正常的に動くことができないようにします。不安の症状は過剰行動を誘発して不眠症とつめをかむ行動のような他の神経症状が現れることもあります。不安と恐怖による情緒上の緊張は様々な疾病の原因になります。第 2 次世界大戦の当時、戦争によって死んだ米軍の数より息子と夫を一線に送って心配と不安に陥り心臓病で死んだアメリカ市民の数が 3 倍であったそうです。聖書ヨブ記の主人公であるヨブは相当な災難に遭った中で＂わたしの恐れるものが、わたしに臨み、／わたしの恐れおののくものが、わが身に及ぶ。＂と告白しました。

第三は、不安と恐怖を治めて心に平安を享受できる道に関して調べてみます。

一、公然に不安な考えをしてはなりません。＂人々が不安な考えをする中で 40%は過ぎた過去に対することであり、50%はまだ存在しない未来に対することで 10%未満だけが現在のためのことである。＂とノーマン・ヴィンセント・ピール博士が話しました。公然に不安な考えを持たせる無知と迷信も除去すべきです。惰弱な精神を所有した人々は全ての種類の迷信を受け入れる傾向があります。彼らの精神は絶え間なく非合理的な恐怖の侵入を受けています。

二、神様の手をしっかり捕まってください。神様が与えてくださった約束の御言葉は神様が伸ばされる御手であります。従って皆さんは詩編 23 編のような御言葉を暗記しておいてください。そして度々このように諳じてください。＂主はわたしの光、わたしの救だ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。＂

三、聖霊で充満を受けてください。イエス様の弟子達はユダヤ宗教指導者と官員を恐れてイエス様が逮捕される時に逃げてしまいました。イエス様の復活消息を聞いても彼らは家の中に集まって門を閉じ、不安と恐怖に押されていました。そのような弟子達が御旬節の日に聖霊充満を受けてからは完全に変わりました。彼らから不安と恐怖がなくなりました。何事も恐れなくなった弟子達はエルサレム距離を闊歩しながら大胆に福音を述べ伝えました。

四、キリスト人は天国の民です。変動できないこの事実を考えてください。人々は死を嫌悪して恐れます。しかし何の恐れなしに死の谷を通過する人々が数多くいます。＂ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる...「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」。＂

神様はキリストイエスの中にいる者に不安と恐れを克服して平安と大胆で生きていける解決策と対策を全てくださいました。聖書には恐れてはならないという御言葉が多く記録されています。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

事実と真実

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

「事実」という単語は、実際にあるかまたはあったこと、あるままの状態や都合を意味します。「真実」という単語は偽りがなく、正しくまことを意味します。実際に、またはあったことに対応するのは非常に広いです。宇宙万物と人間の歴史と私たちが置かれた状況と、すべてのケースが含まれています。ところが、そのような事実の中にはまだ知られていないことがあります。かすかに知られているものがあります。歪曲されたものもあります。操作されたものもあります。そしてある事実は、表面の意味よりも裏面に内在された意味を知らなければならない真実に到達することができるものもあります。これらの点を念頭に置いて事実と真実について、聖書は私たちに与えてくださるメッセージを見てみましょう。

第一に、私たちはなんの事実でも、真実かどうかを知る必要があります。

使徒ヨハネは、「全世界が邪悪な者の支配の下にある。」と言いました。ここで言う悪い者は悪魔を指すことです。**「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ」（ヨハネによる福音書,8:44）**とイエスが言われました。聖書には、邪悪な者たちが事実を操作して、罪のない聖徒を脅かして死に至るようにした事件が記録されています。
ステパノの殉教事件がその典型的な例です。ステパノは恵みと力に満ちて福音を伝えたので大きなしるしと不思議に奇跡がありました。ステパノは、すべての会堂を通って熱心に福音を伝えました。ステパノの弁論を受けることができなくなったユダヤ人が敵意を抱いてステパノを訴える計画しました。彼らはいくつかの人を買収してステパノが言った言葉を操作して、話すようになりました。 「彼はモーセと神に対して不敬な言葉をすることを私達が聞いた」と言わせました。彼らはその捏造された事実として民、長老たちと律法学者たちを扇動してステパノを逮捕しました。ステパノはサンヘドリン議会の前に被告人で立ちました。偽りの証人たちは、ステパノが神聖侮辱を犯しました。議会の中に座った人がすべてステパノを注目しました。なぜなら 神聖侮辱を犯した者は石打ち殺す罰が加わるからです。ところが、驚くべきなことは、ステパノは恐怖に取りつかまれた姿ではなく、その顔が穏やかと威厳に満ちてまた輝きがしました。
公会の議長である大祭司がステパノに告訴内容が事実であることを確認する質問をしました。ステパノは直接の回答を避け、イスラエルの歴史を回顧する内容で口を開いて、論争を展開しました。

ステパノはユダヤ人と 公会員の罪を厳しく責めながら、それらに向かって「かたくな心と耳に割礼を受けていない人たちよ。」と言いました。ステパノの直接的な非難にユダヤ人が心に刺されてステパノに向かって歯ぎました。次の瞬間、ステパノが天を見上げ注目すると天の光景が見えました。ステパノは自分が見て、その光景を声を出して描写しました。「見よ、天が開け人の子が、神の右に立ているのを見る」としました。これを聞いて、そこに集まった人々は、大きな声を出し、耳をふさいで一斉にステパノにかかって彼を城の外に引き出して、石打ちました。
ステパノの殉教事件は、多くのことを教訓します 登場する人々を分類してみましょう。第一部類は、事実を歪曲して捏造し、真実で正しい人を除去する人々です。第二部類は、第一の部類の人々に買収されて行動隊員になる人です。第三の部類は、真実を知ろうとせず、群衆の心の大勢を追従する人です。第四部類は、迫害と脅威と犠牲を覚悟して、真実を追って話し行動する人です。私たちは、第四の部類の人々が主流をなして主導する社会になるように祈って努力しなければなりません。

第二に、すべてのものと歴史と知られている事実と聖書の御言葉に内在されている真実と真理を知らなければなりません。

人は万物がどのようにして存在するようになったのか、存在の理由は何なのかを尋ねられます。また、過去の歴史とその意味を知ろうとしたり、将来の予測をします。これらの探求をする上で非常に重要なことがあります。それは基準と尺度です。神が判断基準となり、聖書が尺度になると、すべての万物は、神の被造物であり、人間の歴史は、神の御心と摂理によって支配されていることを知ることができます。
神は歴史の主権者であり、義と愛をもって治め摂理します。アダムとエバが神の言葉に逆らって不従順したので、罪がこの世に入ってくるし、また死亡が支配しました。あわれみが豊かな神は、罪人を救うためにひとり子を世に遣わし、罪人の罪を担当して、代わりに罰を受けて十字架に釘つけられ死に掛けました。そして死の力に勝って復活させました。そして誰でもイエス・キリストを自分の救い主として信じて受け入れれば救われていただきました。救いを得た聖徒たちは、神の栄光をためで、主を喜ばれるのが人生の目標になって生きていきます。この世は終わりに至ります。救いを得られなかった者は、最後の審判を受けてわずか硫黄の燃える池に投げ込まれます。救い得た者は、新しい天と新しい地、新しいエルサレムで永遠のいのちと祝福を享受するのです。
神と聖書という基準と尺度がなければ万物の存在の原因と人間の歴史と生活の本当の意味と理由を決して知ることができません。聖書には、人が必ず知っておくべき真実と真理が記録されています。それを教えるために、神が預言者と使徒たちを通して、聖書を記録することになりました。聖書に記録された言葉は、偽りが全くありません。すべてが真実です。したがって、聖書に記録された言葉をそのまま信じて従う人は幸いです。
聖書には、裏面的なメッセージが付いていることがたくさんあります。これを見てみましょう。まず、青銅の蛇の話です。イスラエル人が荒野に行進するとき、神とモーセを恨みました。彼らは天から毎日降りてくるマナをひどい食べ物だと不評しながら非常に嫌だと言いました。

このマナは出エジプト初期からイスラエルの民に神が直接授かったのです。初めに彼らはマナを嬉しく感謝の気持ちで食べました。ところが、毎日マナを食べたので、今はマナが嫌いになったと訴えました。神が火の蛇を民の中に送って噛みました。それらのなかで死ぬ者が多くなると民が悔い改めてモーセに祈りを頼みました。「私たちが神とあなたに向かって恨み罪を犯しました。神に祈って主が蛇を私たちから離れるください。」と懇願しました。すると、神はモーセに指示するのを「火の蛇を作って、それを木にかけ置きなさい。誰でもそれを見ると、生きるであろう」としました。モーセが銅の蛇を作って竿の上につけておいたら、ヘビにかまれた者は青銅の蛇を上げてみると生きでいました。この事件では、 裏面的なメッセージがあります。イエス言うのを**「そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」（ ヨハネによる福音書, 3 ：14～16）**しました。蛇事件は、イエス・キリストの贖いの死と、これを信じる者に臨む救いの予言的象徴的な意味があることを、イエスが明らかにしました。銅の蛇を見つめたのは、神の御言葉を信じて従うことを意味します。イエス・キリストを信じれば、永遠の命を得るという言葉を信じて従う人は誰でも救いを得ます。
一例をもう見てみましょう。イザヤ書で**「 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」（ イザヤ書, 53：4～6）**としました。イエス当時のユダヤ人たちは、イエスが苦難について「彼は罰を受けて、神に打たれ、苦難を受ける」と思いました。聖霊の教えを受けられなければこのようにしか考えていません。イエスが受けた苦難の本当の意味は何ですか？ **彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。**としました。

愛する皆さんはどんな事実でも真実かどうかを知ろうと努力して、物事の歴史と事実に内在された本当の意味を知ろうと渇望するので、聖霊様の教えを受けることを願っております。